

千倉協事務局からのお知らせ

(307)

TEL : 043-307-1581 FAX : 043-307-1582

令和8年3月27日

千葉県倉庫協会事務局

《今月号の記事》

1. 第2回品目別部会・全体会議・講演会を開催しました
2. 令和7年度第4回総務委員会を開催しました
3. 「第79回通常総会」の開催について
4. 千葉県倉庫協会会長表彰の推薦について
5. 「今後の行事等」予定
6. 事務局からのお知らせ
7. 3月4日開催の品目別部会報告

☆ 研修・セミナーの案内等はeメール・電話等により請求いただければ、再送いたします。

☆ このお知らせは各会員の連絡担当者の方に配布しております。皆様にご覧になれるようご配慮をお願いいたします。

☆ 異動等で連絡担当者に変更になる場合及びメールアドレスが変更になる場合には、ご連絡をお願いいたします。

☆ 関総連5協会とは、茨城、群馬、栃木、山梨と千葉県倉庫協会です。

6協会とは東京倉庫協会を加え、7協会とは神奈川倉庫協会を加えます。

1. 第2回品目別部会・全体会議・講演会を開催しました

令和7年度第2回品目別部会・全体会議は3月4日（水）ホテルグリーンタワー幕張において開催しました。4部会の会議には61名の参加をいただき、全体会議後の講演会は64名が参加していただきました。

2. 令和7年度第4回総務委員会を開催しました

令和7年度第4回総務委員会は、3月18日（水）に開催しました。議事内容は、12月以降の役員、委員の交代、会員の移動、主な活動状況、仮決算等報告され、次に審議事項は今後の行動予定及び第79回通常総会の議案書（案）等が承認され、理事会に提案します。

3. 第79回通常総会の開催について

第79回通常総会は次のとおり開催します。事務局では、会員の皆様の参加をお待ちしております。尚、欠席の場合は「委任状」の提出をお願い致します。また、千葉県倉庫協会・千葉食糧保管協会合同懇親会も予定しております。

また、翌日21日には有志によるゴルフコンペを姉崎カントリー倶楽部で開催をいたします。

日 時 5月20日(水)

場 所 龍宮城スパホテル三日月

木更津市北浜町1 TEL0438-41-8111

開始時間は次のとおり

14:00 千葉県倉庫協会第79回通常総会・協会長表彰

16:00 千葉食糧保管協会第45回通常総会

18:00 千葉県倉庫協会・千葉食糧保管協会合同懇親会

4. 千葉県倉庫協会会長表彰の推薦について

1月5日に倉庫業の永年勤続者候補者推薦を案内したところ、会員の皆様からの沢山の推薦がありました。

4月の理事会で審議し、受賞者を決定します。5月20日千葉県倉庫協会第79回通常総会において、千葉県倉庫協会会長表彰を行います。

5. 「今後の行事等」予定

4月22日(水) 午前 : 第227回理事会

5月20日(水) 午後 : 第79回通常総会

6. 倉庫業に係る定期報告・・・事務局からのお願い・・・

定期報告書は、皆様から報告いただいたものを集計して、皆様にお返ししています。

また、皆様に代わり関東運輸局に報告しております。

皆様からの報告が遅れますと、関東運輸局への報告も遅れますので、お忙しいところ恐れ入りますが提出期限について、よろしくお願ひします。

報告書の提出期限・・・毎月翌月の20日・・・協会への提出期限です

- 月末倉庫使用状況報告書
- 受寄物入出庫高及び保管残高報告書

7. 品目別部会 各部会発表内容

A. 【穀肥・食料品部会 報告】

本日の穀肥・食料品部会は、12社14名が参加されました。

1 米穀関係

(1) 令和7年12月末現在の在庫状況等

ア 米 26,953 トン（前年同期 34,341 トン、▲7,388 トン減少、78.5%）

イ 令和7年10月～12月の3ヶ月平均

① 入庫動向 7,875 トン 前年同期 8,348 トン ▲473 トン減少

② 出庫動向 10,147 トン 前年同期 6,960 トン 3,187 トン増加

③ 残高動向 29,211 トン 前年同期 31,692 トン ▲2,481 トン減少

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

・昨年5月の交代した小泉農水大臣は、備蓄米を随意契約で放出し市場をジャブジャブにして5kg3,000円台にすると表明しました。

備蓄米は本来20万トンを5年保管し更新して100万トンの水準を維持する約束でしたが、一方的に緊急放出され保管していた倉庫は東京ドーム約8個分がカラになり死活問題となりました。

・政治判断で一度に大量の出庫指示が出たため、現場では猛暑の中で残業、休日出勤もしながら必死で作業対応をしてきました。

・全国定温倉庫協同組合（以下「定倉協」という。）では、組合員の窮状を打破するため、物流倉庫振興推進議員連盟に働きかけ農水省と意見交換を重ねる中で支援の方向性が示されました。

具体的には、「荷役経費の支弁及び年度末までの保管料を支弁」するということでした。

・備蓄米の放出をうけ民間米の動きが鈍い。損切して販売をする社も出てきたが、今年の新米と抱合せで販売を検討している社もある。

イ 課題

・今回の緊急放出された倉庫では、一部撤退を決めた倉庫も相当あるようです。

今後買い戻しがあった場合の定温倉庫が確保できるか。

・備蓄米の保管期間、数量を含めた契約内容の明確化が必要と思われます。

2 麦関係

(1) 令和7年12月末現在の在庫状況等

ア 麦 172,691 トン（前年同期 157,498 トン、15,193 トン増加、109.6%）

イ 令和7年10月～12月の3ヶ月平均

- ① 入庫動向 91,442 トン、前年同期 80,427 トン 11,015 トン増加
- ② 出庫動向 95,727 トン、前年同期 83,206 トン 12,521 トン増加
- ③ 残高動向 173,465 トン、前年同期 161,384 トン 12,081 トン増加

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・サイロが来年で 60 年になる。修繕が遅れている。
- ・植検不合格により燻蒸が多くなった。
- ・バースで粉塵爆発があり本船が接岸できず迷惑をかけた。
- ・ダストは処理が進み屋根下で収まるようになった。

イ 課題

- ・設備の老朽化、船内荷役の人出不足、諸経費の高騰。
- ・稼働していない土日に工事をしたいが業者も休日に対応できない。
- ・サイロ業界は老朽化対策で同じ悩みを持っているので国に考えてもらいたい。

3 飲料関係

(1) 令和 7 年 12 月末現在の在庫状況等

ア 飲料 60,019 トン (前年同期 67,330 トン、▲7,311 トン減少、89.1%)

イ 令和 7 年 10 月～12 月の 3 ヶ月平均

- ① 入庫動向 110,778 トン、前年同期 127,014 トン ▲16,236 トン減少
- ② 出庫動向 112,736 トン、前年同期 124,151 トン ▲11,415 トン減少
- ③ 残高動向 59,454 トン、前年同期 66,506 トン ▲7,052 トン減少

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・焼酎の売り上げが好調である。
- ・ドラッグストアの取り扱いが伸びている。
- ・飲料は夏に向け在庫を積み増していく。

イ 課題

- ・ドライバー不足、フォークオペレーターを募集しても集まらない。
- ・派遣会社から値上げ要請がきている。

4 缶詰・びん詰

(1) 令和 7 年 12 月末現在の在庫状況等

ア 缶詰・びん詰 4,706 トン (前年同期 4,364 トン、342 トン増加、107.8%)

イ 令和 7 年 10 月～12 月の 3 ヶ月平均

- ① 入庫動向 2,350 トン、前年同期 2,705 トン ▲355 トン減少
- ② 出庫動向 2,614 トン、前年同期 2,702 トン ▲88 トン減少
- ③ 残高動向 5,026 トン、前年同期 4,603 トン 423 トン増加

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・ 11月に利益が88%まで落ちたがその他の月は好調で2月までに取り戻した。
- ・ 運賃改定が数社きている。

イ 課題

- ・ レンタルパレットを活用した荷役の効率化。

B. 【原材料部会 報告】

原材料部会は、加盟7店社11名により、「鉄鋼、非鉄金属、石炭・石油コークス、木材」の各分野について、動向を確認いたしました。

鉄鋼分野は、内需の停滞と供給網の変容という多面的な課題に直面しています。国内製品は、建設業界の人手不足や自動車生産の停滞により、全品種で荷動きの低迷が続いています。物流面では2024年問題への対応としてモーダルシフトを模索する動きがあるものの、物量減少が足かせとなり、経費節減と自力での収益確保が喫緊の課題となっています。一方、輸入品は決算対策に伴う出荷増や、製鉄拠点の改修工事に向けた先行生産といった特殊事情により、倉庫在庫が高水準で推移しています。加えて、中国・韓国産を対象としたアンチダンピング調査に伴う駆け込み需要も在庫を押し上げました。今後の見通しについては、建築着工の伸び悩みから荷動きの停滞が続く見込みです。貿易摩擦の影響で中国産が手控えられる一方、その減少分を韓国産が補完する形で供給構造が変化しており、全体として力強い回復は見込めない状況にあります。

非鉄金属分野では、地政学的な緊張を背景に、特定資源国への依存を低減させる動きが加速しています。合金鉄は、マンガン系が中国産からベトナム・インド・ガボン産へシフトし、シリコン系もロシア産の供給断絶に伴いマレーシア産等への代替依存が続いています。今後は、ガボンに見られる原材料輸出から一次加工品出荷へのシフトといった資源国の国策転換を筆頭に、調達先の多角化が定着すると予測されます。従来の慣行に縛られない、より柔軟かつ強靱なサプライチェーンの構築が不可欠な局面を迎えています。

オーストラリア・インドネシア産の石炭やアメリカ産の石油コークスは、世界的な脱炭素化の加速により火力発電向け需要が減退しつつあります。現在は、この構造的な需要減を補完すべく、既存の物流設備やノウハウを活かしてバイオ燃料の取扱拡大を図る重要な過渡期にあります。今後は、従来の鉱物資源の枠組みを超えた環境配慮型燃料への対応力が求められます。

木材分野の東南アジア産の輸入合板は、産地価格の高騰と原木不足により、供給が極めて不安定です。国内では、関東圏での長期滞留による倉庫の満床状態と、他地域での在庫枯渇という在庫の極端な地域偏在が管理の難易度を高めています。今後の合板市場では、価格転嫁前の駆け込み需要も予想されますが、より深刻なのは、産地荷主が日本市場を敬遠し他国への供給を優先する日本買い

負けのリスクです。一方、ニュージーランド・リトアニア産の単板や北海道産の原木は、旺盛な需要を背景に堅調な推移が見込まれます。

原材料部会の総括としては、地政学リスクに伴う調達ルートの再編、国内の2024年問題に起因する輸送能力不足、さらには脱炭素化や資源国の国策転換といった複数の転換点に一斉に直面しています。今後は、価格競争力以上に供給の確実性と安全性を優先する調達先の分散によるリスクヘッジを推進することが肝要です。同時に、モーダルシフトの加速や新燃料への対応力を備えた強靱なサプライチェーンを再構築していくことが、持続的な収益基盤を確立する上での最優先事項となります。

C. 【機器製品部会及びトランクルーム部会 報告】

本日は8社13名の出席をもって意見交換を行いました。

取扱いとして金属製品、電気機械、その他機械、繊維系製品、雑品・雑貨、トランクルームとなります。

1. 協会加盟の事業者動向について

昨年の第3四半期（10～12月）の動向とトピックについては、全体で、入庫が前年比41%、出庫32%、残高26%と大きく縮小している。

品目別では、「電気機械」が入庫23%と大幅に減少しているが、これは昨年まで取り扱いが多かった西濃シェンカーさんが退会したことが主因で、実態以上に落ち込んで見える形となっている。その一方で「化学繊維織」が特に増加傾向にある。

その他では、「金属製品」や「雑品」は若干縮小し、「織物製品」や「日用品」は概ね横ばいとなっている。

2. 営業関係

国際物流を中心に営業している事業者からは、「欧米企業からのスタートアップの案件・引き合いが増えてきている」という話があった。LEDを取り扱っている事業所からは蛍光灯の2027年問題を背景に動きが好調な状態が続いているという。逆に中国中心の輸入品を取り扱っているお客様の荷動きは低調であったという声があった。

3. トランクルームについて

全国的に拡大するトランクルーム市場は、2025年時点で850億円規模に達し、2027年には1,000億円超が見込まれる成長産業となっている。

中でも千葉県は首都圏の中核エリアとして需要が急伸しており、東京近郊エリア（埼玉・千葉・横浜・川崎・厚木）では、2008年比で店舗数が約3倍へ増加するなど、住宅の狭小化と首都圏人口の動きに伴い、収納需要の受け皿として重要な役割を担っている。

特に千葉は、都心アクセスの良さと多様な住宅事情から、外部収納を日常的に利用する層が増加しており、今後は、温湿度管理やスマートロックなどデジタル化された高付加価値施設の普及により、当県での利用拡大と事業機会の増大が期待されている。

D. 【化学品部会 報告】

本日の化学品部会は、12社 15名が出席し下半期と直近の状況報告に加え、意見交換を行いました。会員企業様の多くは、化学製品・合成ゴム・石油製品・塗料などを取扱っており、これらを主として報告いたします。

1. 下半期と直近の状況

年間を通した取扱量は、会員企業の各社様により若干の差があるが、大凡前年比で1～2割減少しているという報告が多かった。一部では一昨年比4割減という企業様もあり、直接的には2025年度は荷主企業様の大型定修が行われたことに加え生産調整が起因していると思われる。

また、上半期と比較し、下半期には稼働と生産量が平常に戻ったように感じられるが、多くの企業様から、荷役と保管に分類すると保管は満床だが荷動きは芳しくなく荷役量が減少したという報告が多かった。

荷主企業様の定期修繕は計画的に行われるので我々は庫腹調整を行うものの、荷主企業様の販売と消費に左右される入出荷は調整が難しく、加えて昨今の荷主企業様の再編や生産拠点の見直しの影響が大きく、取扱量が増加して行くことについて期待が薄いと予想される。

更に直近で発生した中東不安により、同地向け本船積載のため出荷した製品が本船の航海不順となり持ち戻ることになった企業様の報告もあり、海外輸出についても出荷量が減少する懸念が出てきたことが感じられた。

2. トピックス

(1) 輸配送

2026年4月から運送事業適正化関連法等の施行されることから、一部の企業様から荷主企業様の入退場の時間管理が始まったとの報告があり、改めて2024年問題への対応が強化されてきたことが感じられた。

(2) 人材採用

特にF/Lオペレーターとドライバーの要員不足が目立つ。募集に対し応募数が足りておらず、地域により周辺の高校のクラスが過去と比較し半減、且つ進学希望者が増えていることから、就職希望者の絶対数が減少していると報告があった。特に時間給や土日等に出勤する社員の確保に苦慮している報告があった一方で、軽作業から外国人の採用を試験的に行っている企業様もいた。

(3) フィジカルインターネット

一部の企業様から、「共同輸送・共同保管」に関してお客様からの問合せが増えてきたという報告があった。これらは身近なところで国交省・経産省が主導する化学品WGで検討されてる

内容と相通ずるところがあり、輸配送の課題と絡み我々の荷主企業様の対応が加速してきているように感じられた。

千葉県倉庫協会のホームページ

<http://www.soukoweb.jp/chiba/index.htm>

- ① 事務局からのお知らせ
- ② 会員のページ（毎月の残高報告）